

## 『千秋楽』

日生劇場での「レ・ミゼラブル」公演、おかげさまでぶじ終了しました。千秋楽ではひとりずつ挨拶させていただいたのですが、私は思ったことの半分も言葉にできず、泣きながらグダグダのスピーチになってしまいました。本当はこんなことが言いたかったのです、というのを今から書きます。

エポニーヌを演じて4年。見守ってくださったお客様に心から感謝しています。ありがとうございます。最初の年は、私の思い描くエポニーヌ像にはあまりにも遠い未熟な自分自身が悔しいやら情けないやらで、もどかしくて泣いてばかりの、大変な落ちこぼれでした。そんな頼りない私を支えてくださったのは、いつも一緒にステージに立つ仲間たちであり、プロの職人集団である心強いスタッフのみなさん、毎日笑顔で迎えてくれるオーケストラの皆さんでした。この作品を通してたくさん素晴らしい人たちに会うことができ本当に幸せです。

「レ・ミゼラブル」は昔から大好きな作品で、その舞台に立つことは私にとって夢でもありました。でもそれが現実になってみると、試練でした。毎日が自分との闘い。無我夢中で挑み続けるうちに、いつの間にか4年も経っていたという感じです。大好きな、憧れの作品に立っている喜びさえも、噛みしめている余裕はずっとありませんでした。夢に近付くということはこのようにも苦しく厳しいものかと、何度くじけそうになったかわかりません。それほど、この作品自体の持つテーマの深さ、音楽の持つ繊細さ、セリフの持つエネルギーの大きさが特別だということなのでしょう。

でも、先日の東京公演の千秋楽を迎えながら思ったことは、「やっぱり、この作品が好き！」そして「ここに参加できて、幸せ！」でした。いろいろな経験を経て、改めて素直にそう感じる事ができて、感慨深いものがあります。

この4年間で学んだことはたくさんありますが、中でも一番大きいのは、敵は自分の中にあるということです。誰でも、何かにくじけそうなときは、それを人のせいにしたり、状況のせいにしたいものです。でも、本当の敵は自分の中にある恐れや不安なのです。自分が作り出してしまった見えない敵と闘うことが、いちばん過酷だけど、いちばん重要なこと。私は毎ステージ、自分の中にある弱さと闘いながら、少しずつではありますが、前進してこれたように思います。そうやって私を鍛えてくれた「レ・ミゼラブル」に、ありがとうと言いたいです。

もちろん、まだまだこれから乗り越えなくちゃ行けないものもたくさんあるし、ここで学んだことを糧にこれからも努力をしていきたいと思えます。今後ともよろしく願います。

さて、「千秋楽」ってことばが私は妙に好きでして、なんか気持ちが引き締まる感じがするというか、ちょっと職人っぽい響きもあり、うまく言えませんがとにかく好きなんです。このレミゼでも4年の間に各劇場で何度も千秋楽を迎えてきたわけですが、そのたびに毎回毎回涙が込み上げてくるので困ります。昔から卒業式とか人の結婚式とか、何かの節目には必ずやたら泣いてしまう私ですが、千秋楽も同様。私が涙もろいというのは、私のファンの皆さんにはもう周知のことかもしれませんが、その日たまたま観にいらしたお客様は「あら、あの人なんであんなに泣いてるのかしら、どよどよどよ」てなことになってるかもしれません。だからいつも一生懸命我慢してきたのですが、なんか今回は4年の一区切りとなる公演でしたので、すっかり歯止めがきかなくなつてマスカラも取れまくり。お見苦しいものを、失礼しました。

だけど、千秋楽でいちばん感動したのは、舞台上での共演者のみなさんの表情です。みんなの歌う姿は本当にイキイキとして、凛々しく、その美しさといったら！目に焼き付けておかなかちや、と強く思いました。自分の夢にすべてを注ぐ人から放たれているオーラ、それは私にも大きなエネルギーをくれました。

---

THE ID ...the id : 2006.4.19

## 『26歳の誕生日』

わたくし、3月31日に26歳になりました。

最近の仕事の場でも自分より年下の人が増え、CDデビュー10周年という響きも相成って、なんとなく自分の年齢がネタになってしまう場面も多々。先日共演した現役女子高生の役者さんに「私にもそんな時があったのよー」と言ったら困った顔で黙られた・・・。



だけど26歳って、べつにそんなに大人じゃない、けどそんなに若くもない。ザ・中途半端な状態なんだと思います。若さを盾に笑ってごまかしてきたことが許されなくなってきて、お肌の曲がり角を曲がりたくないのにきっちり曲がって、自由になるお金は増えてきても遊ぶ時間は減ってきて、それでいて世の中ではまだ一人前の大人とはなかなか認めてもらえないいろいろジレンマな日々。

だけど色々あってもやっぱり、歳をとるのは素晴らしいことだ！と私は心から思います。毎年誕生日が来ると、仕事仲間や、友だちや、家族、みんなにお祝いしてもらって幸せな気持ちになります。もちろん、ファンの皆さんからいただくバースデーカードも。お心のこもったメッセージをひとつひとつ読んでいると、こんなに私の誕生日を祝ってくれる人がたくさんいるのかあ、と、本当にありがたいです。

誕生日が来るたびに、1年前の自分より今のほうがちょっと好き、と思いたい。今のところ、毎年一応そう思っています。だって、前回の誕生日から今回の誕生日までの間に起こった良いことや悪いことやどうでもいいこと、すべてが現在の自分の材料となっているわけだから、そのぶんだけ何かイイはずなもの。

今年も、最近出会った人や、昔からの仲間、それぞれの場所でみんなに誕生日を祝ってもらって、なんか幸せだなあとしみじみ思ったのでした。

みなさんありがとうございます！

26歳の坂本真綾をよろしく願います！

\* maaya \*

---

... THE ID